

TAC魚種拡大に向けたスケジュール

● 新たなTAC管理の検討は、以下の2つの条件に合致するものから順次開始する。

① 漁獲量が多い魚種 (漁獲量上位35種を中心とする) ② MSYベースの資源評価が近い将来実施される見込みの魚種

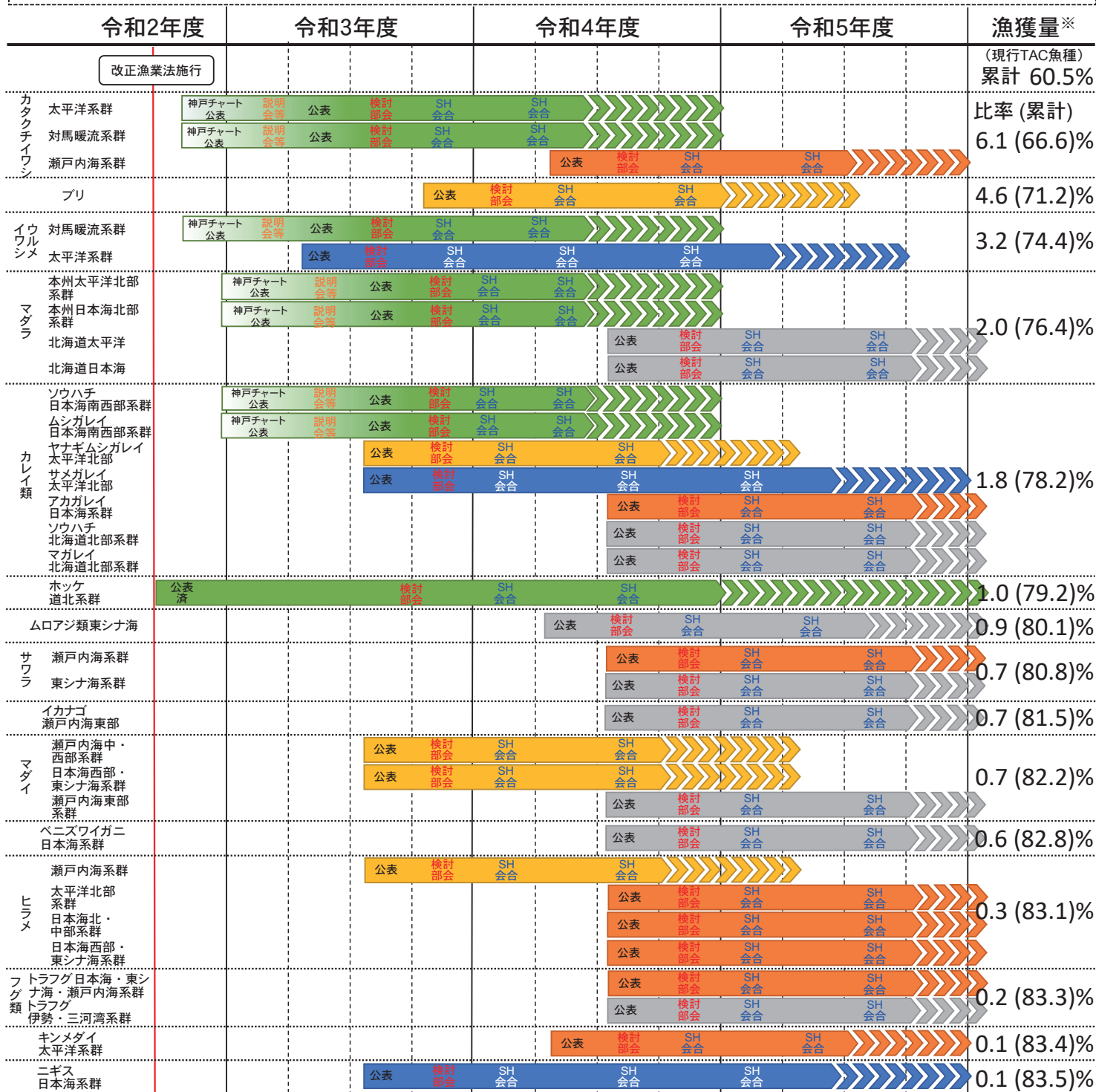
● 専門家や漁業者も参加した「資源管理手法検討部会」を水産政策審議会の下に設け、論点や意見を整理。

● 漁業者及び漁業者団体の意見を十分かつ丁寧に聴き、現場の実態を十分に反映し、関係する漁業者の理解と協力を得た上で進める。

<漁獲量の多いものうち、MSYベースの資源評価が実施される見込みのもの>

第1陣：利用可能なデータ種類の多いもの (Aグループ、Bグループ、Cグループ)

第2陣：利用可能なデータの比較的小さいもの (Dグループ、Eグループ)



● 公表：資源評価結果の公表、神戸チャート公表：過去から現在までの資源状況を表した神戸チャートを公表、

検討部会：資源管理手法検討部会、SH会合：資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）、説明会等：必要に応じ、説明会等を実施（検討部会、SH会合、説明会等の開催スケジュールはイメージ。必要に応じ、複数回開催する。）

● 資源評価結果は毎年更新される。

● 資源評価の進捗状況によって、上記のスケジュールは時期が前後する場合がある。

● 令和5年度までに、漁獲量ベースで8割をTAC管理とする。

（遠洋漁業で漁獲される魚類、国際的な枠組みで管理される魚類（かつお・まぐろ・かじき類）、さけ・ます類、貝類、藻類、うに類、海産ほ乳類は除く。）

※ データ元：漁業・養殖生産統計（平成28年～平成30年平均）